

【IIMのポリシー】

「販売とはサポートである」

～性能管理のセミプロ育成をめざして～

OUR VISION

自立した性能管理促進



貴社のビジネス戦略・中期計画に即した
ITシステム管理の実現を支援

- ▶ 貴社ビジネスと
ITシステムの関連性を把握
- ▶ 日々の業務や事業展開における
ITシステムの貢献度を可視化

セルフ
オペレーション

最適化
(最適化)

STEP
03

自社の戦略や
方針に基づく
自立した性能管理を実現

スタートアップ

STEP
02

稼働実績に基づいて
対象システムを最適化

STEP
01

IIMのノウハウを生かしながら
既存のシステム運用を置き換え



メインフレームの性能管理ソリューション

変わる世界に合った性能管理を。



ES/1 NEO

MFシリーズ



システムの「安定稼働」と「コスト削減」を実現



株式会社 アイ・アイ・エム URL <http://www.iim.co.jp/> E-mail inquiry@iim.co.jp

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-6-1 セイコー京橋イーストビル
TEL : 03-6858-4710(代) FAX : 03-6858-4711

大阪支店 〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町4-2-15 ヨドコウ第2ビル
TEL : 06-6245-0001(代) FAX : 06-6245-0005

中部営業所 〒460-0008 名古屋市中区栄 2-2-17 名古屋情報センタービル
TEL : 052-220-2977 FAX : 052-220-2978

17.05.30

性能問題を可視化し、システムの 「安定稼働」と「コスト削減」をお約束します。

メインフレームを「可視化」し、
「タイムリーな問題分析」「問題の予兆検知」を最小工数で実施することにより、
「安定稼働」と「コスト削減」を実現する唯一の性能管理ソフトウェア。
それがES/1 NEO MFシリーズです。



こんなトラブルでお困りではありませんか？

ES/1 NEO MFシリーズが課題を解決します！！



性能問題が発生しても、その原因がわからない…

メインフレームでの性能問題発生時は膨大なデータから
広範囲な項目を分析する必要があるが、分析ノウハウも無い。
メーカーに問い合わせをしても回答に時間がかかってしまう上に、
ハードウェアの能力に頼った解決策の提示も多い。
自社の担当者にて迅速に原因を特定し、自社にとって最適なチューニングを行いたい。



自動分析で迅速な原因の特定

システムを自動で分析し、問題点を日本語で指摘します。
解決方法まで提示しますので、性能が悪化した際もすぐに対処することができます。
適切なチューニングを行うことで、ハードウェアを増強することなく、性能問題を改善することができます。



性能悪化をユーザーからクレームが来る前に察知したい

お客様や利用者からのクレームなど
急な対応を迫られることがたびたび発生する。
調査をすると経年劣化や特定日の処理など、
事前に気付ける原因であることも多いため、予兆を捉えて事前に対処したい。



性能悪化の予兆を検知し未然に防止

現在の問題点だけでなく、今後問題点になり得る潜在的な問題点も指摘しますので、
事前に解決することで性能問題の発生を予防します。
また、中長期的な稼働状況を確認できますので、システムの傾向を把握し問題発生前
に対策を講じることができます。



システムが過剰投資になっている気がする…

マシンリプレイス時のサイジングやMSU削減など過剰投資を
見直す機会はあるが、時間もノウハウも無く、
メーカー提案をそのまま受け入れてしまっている。
メーカー提案の検証や、MSUの削減の可能性確認などして、
最適なコストでの利用を実現したい。



IT投資コストの最適化を実現

膨大な性能データを効率的に解析できるので、業務量の伸びに応じた適正リソース量
を把握でき、精度の高いサイジングやMSU削減を立案できます。
また、IIMのクリニックサポートによるプロからのアドバイスも受けられるので
ノウハウが無くても、メーカー提案の第三者検証も行えます。
これにより、数値データに裏付けられた計画的なコスト削減や投資ができます。



定例作業や自社開発ツールの維持に工数がかかってしまう…

日々の稼働グラフや月報作成などに工数がかかる上に、
効率化するための自社開発ツールのメンテナンスにも工数がとられてしまう。
性能管理に関する時間を大幅に削減したい。



性能管理の工数を大幅に削減

データ取得→加工→分析・評価→報告書作成を全自動で行います。
パッケージなのでメンテナンスの必要も無く、変更や新機能への追従も行うため、
時間・労力・コストを大幅に削減することができます。

安定稼働を実現

コスト削減を実現

メーカーコンサルタントレベルの高度な性能管理をソフトウェアで実現。 MFシリーズの性能管理は、システムの最適化を実現します!!

特長1: 上級SEでも数週間かかる分析をわずか数分で自動分析

特長2: メーカー標準データを用いた安全・広範囲・多様な分析

特長3: 多種多様な稼働統計レポートを自動で作成しWebで情報共有

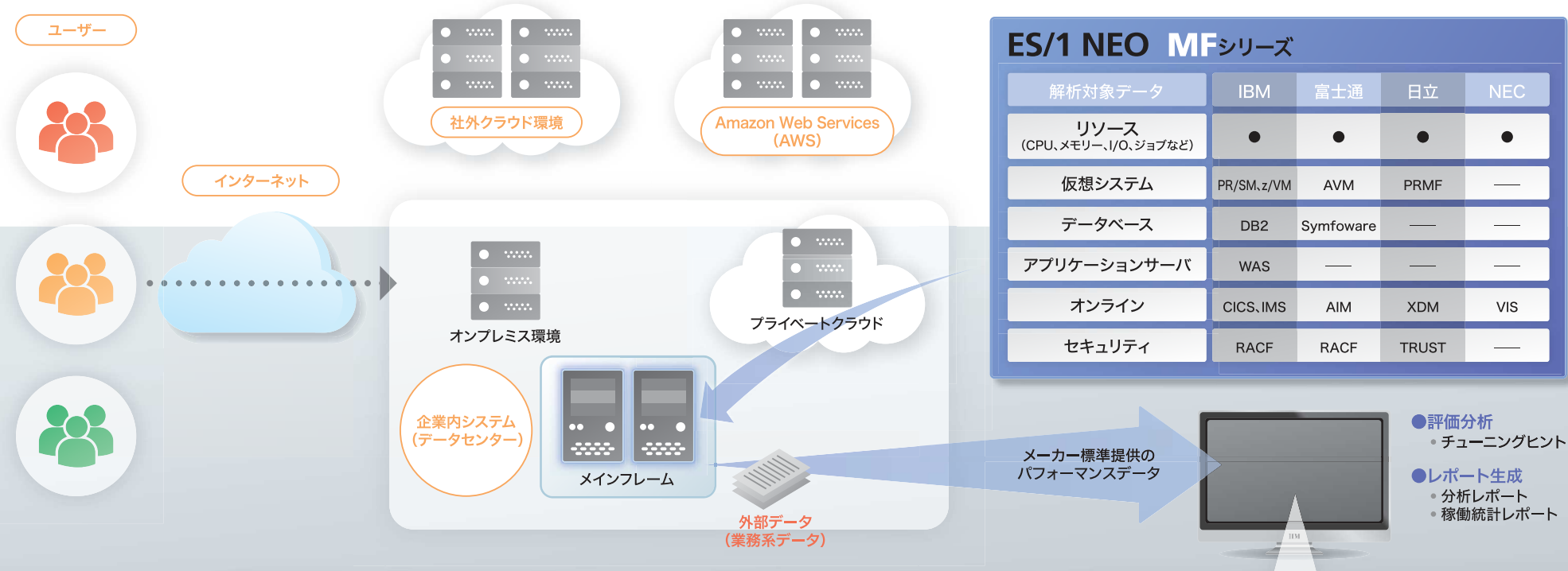
特長4: 充実したサポートで製品をフル活用し無料セミナーでスキルアップ

- チューニングヒント
- プロからのアドバイス
- IIMクリニック

- 全自動レポート
- チューニングヒント
- プロからのアドバイス
- IIMクリニック

- 全自動レポート
- IIMクリニック
- MSU削減シミュレーション

- 全自動レポート
- 情報共有



チューニングヒント

(C) I I M CORP. 1987-2008 IIMF+ / 32b / 1 ***** (P)F02L / F02P / 03 ***** CPERTR06 12
ES/1 NEO MF SERIES VER=03 LVL=26

重要度 1 ディスク・ボリュームの応答時間が遅いです。 (* I O S S 0 2 1 *)
いずれかのディスク・ボリュームの応答時間が遅いです。重要な業務に影響を受けていないことを確認して下さい。それらのディスク・ボリュームを次に示します。

IIM118 929,391(HS) IIM670 244,74(HS) IIM873 225,40(HS) IIM539 188,540(HS) IIM236 153,40(HS)
IIM339 133,36(HS) IIM512 133,32(HS) IIM725 128,54(HS) IIM722 116,42(HS) IIM343 108,52(HS)
IIM422 187,11(HS) W0R33 185,43(HS) IIM977 181,23(HS) IIM832 89,526(HS) IIM822 98,439(HS)
IIM432 89,600(HS) IIM667 87,604(HS) IIM669 83,785(HS) IIM269 83,389(HS) IIM443 81,922(HS)

重要度 1 SQA領域を拡張して下さい。 (* V S O 2 1 *)
システム待ち合わせ領域 (SQA) が冗长的な処理サービス (CSA) をシステム待ち合わせ領域に使用しています。このような事象は発生するべきではありません。

重要度 2 プロセッサの割合が高いです。 (* P R O C 0 1 2 *)
プロセッサのアクセス待ち時間が長くなっています。ディスクバッキング・フライオリティが正しく設定されていることを確認して下さい。システム・タスクまたは業務の優先度を高くする必要があります。プロセッサ使用率が高いのは 66.49 (平均) 96.42 (最大) です。

重要度 2 管理制御領域の送信時間が長くなります。 (* I O S S 0 7 2 *)
管理制御領域におけるI/O待ち時間 (I/O待ち時間を長く) が長いです。重要な業務に影響を受けていないことを確認して下さい。それらの管理制御領域を、次に示します。

0043 1229,268(HS) 0020 743,067(HS) 0035 728,167(HS) 0021 424,459(HS) 0032 412,522(HS)
0030 208,586(HS) 0031 287,692(HS) 001F 164,803(HS) 0033 132,652(HS) 001D 121,179(HS)
001E 84,283(HS) 002F 79,218(HS) 0029 59,400(HS) 0042 43,439(HS) 0036 41,213(HS)
0034 37,957(HS) 0041 17,373(HS)

重要度 2 結合構造のストレージ容量が大きすぎます。 (* C O U P L I N G 0 2 2 *)
結合構造のストレージの使用率が50%にも達していません。ストレージを無駄にしていると考えられます。

IIMのノウハウをロジック化し自動分析します。問題を5段階に分けて現状の問題点と将来問題となる予兆を指摘します。

プロからのアドバイス

第3章 パフォーマンス評価データ算出式

I O S S 0 1 n

【説明】
入出力サブシステムへのアクセス・パスを構成するチャネルもしくはチャネル・パスの使用率が高過ぎます。アクセス・パスのバランス化を考慮すると同時にディスク装置でのRPSミス時間に注意して下さい。

【解説】
ディスク装置の応答時間は次のように分類できます。

応答時間		サービス時間			
アクセス待ち時間	アクセス・パス待ち時間	デバイス待ち時間	シーク	回転待ち	RPSミス
					データ転送

これらの項目の内、アクセス・パスの使用率に関する項目は、RPSミス時間です。他の項目は、その他の要因によって決定されます。

RPSミス時間はシーク動作完了後、目的レコードがリード/クイット機構の直前に到着した時点で、入出力装置と実ストレージ間のアクセス・パスを奪有できるか否かによって、その長さが

実ストレージ

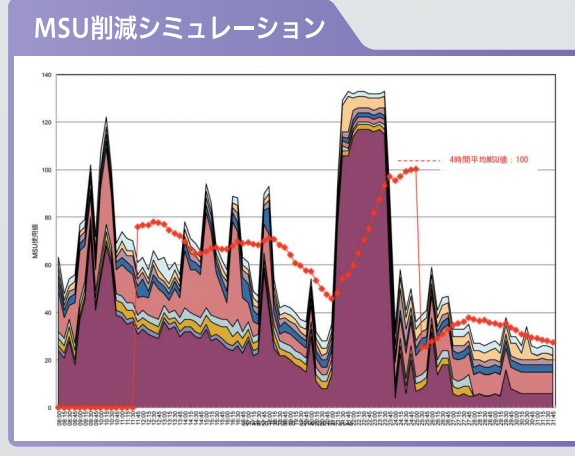
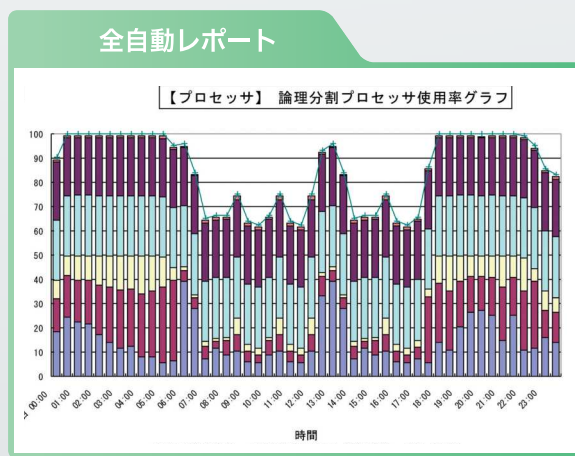
↑ OK? CH

チューニングヒントで指摘された問題点に関する解説やチューニング方法を表示します。

IIMクリニック

様々な性能問題を解決してきたコンサルタントがES/1のデータを用いて、「問題点の特定」「チューニング案の提示」や、コストの最適化を実現する「マシンサイジング」を実施します。

※有償サービスとなります



情報共有

「チューニングヒント」「全自動レポート」などの各種レポートを関係者全員で共有できます。日次・週次・月次・年次レポートおよび、比較や前年同月比なども閲覧できます。